

2024年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
マレーシアと日本における環境や文化に対する意識比較	Aコース

学生情報	
氏名	下平桃菜
所属学部・研究科	工学部
学年(出発時)	4年

渡航先情報	
渡航先	マレーシア・トレンガヌ,ペナン,クアラルンプール
渡航先滞在期間	2024年9月7日 ～ 2024年9月17日
訪問先機関等	タチ大学
訪問先機関での身分	学生

渡航概要と内容

私は環境問題やエネルギー問題に対して、化学の力を用いて解決しようと研究を行っています。研究室では、留学生がいるなど国際交流が盛んであることもあり、世界のエネルギー事情に対しても興味を持つようになりました。日本とマレーシアは、環境問題への取り組みとして、2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言しています。しかし、化石燃料を豊富に持つマレーシアと化石燃料を輸入に頼る日本とでは、エネルギー問題に対しての認識や省エネへの取り組み方に意識の差があるのではないかと考えました。そこで、マレーシアへ訪問し、環境問題やエネルギー問題への認識、省エネへの取り組み方の違いについて、日本と比較して調査を行いたいと考えました。調査は現地の大学と商業施設・飲食店などで行いました。大学では、現地の学生・教職員の方々に環境問題やエネルギー問題に関するアンケートを行いました。また、脱炭素社会を目指す三重大学との施設面(風力発電・太陽光発電)での違いや省エネ・環境保全に対する意識(冷暖房の設定温度、使わない電気は消す、ごみの分別)の違いについても調査・視察を行いました。さらに、環境化学技術について学べる研究室を訪問し、マレーシアの環境問題について教えていただきました。商業施設・飲食店などでは、日本の企業が行っている脱炭素社会への取り組みとの違いを探しました。

渡航により達成できたこと

私は今回の渡航により、タチ大学の教授からマレーシアの代表的な産業の一つであるパーム油の生産法について教えていただきました。マレーシアではパーム油による環境問題が深刻で、持続可能なパーム油を目指して様々な規制や取り組み、研究がされていることが分かりました。また、マレーシアの学生や教職員の方々にエネルギー問題や環境問題に関する意識調査を行うことができました。マレーシアは化石燃料が豊富であるためエネルギー問題に対する注目度は低いのではないかと考えていました。しかし、ほとんどの方がエネルギー問題に対しても危機感を感じており、世界共通の問題であることが分かりました。また大学にも省エネを促すポスターや太陽光発電があったり、クアラルンプール市内ではEVバスが走っていたりと、日本と同様にエネルギー問題解決にも力を入れていることが分かりました。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

渡航を通じて印象に残っていることは、マレーシアの車とバイクの多さです。あまりの多さに、目で見えてわかるくらい大気が汚染されているところもありました。また、滞在先の大学でも、多くの学生がバイクや車を持っており、キャンパス内を移動するときにも徒歩や自転車を利用することなく、バイクや車を利用していました。さらに、マレーシアでは歩行者よりも車の方が優先されているため、横断歩道も信号がすぐに変わってしまったり、車を止めて渡るしかないといった道路があったり、日本との違いを感じました。他には、マレーシアのテイクアウト文化です。マレーシアの代表的なナイトマーケットでは、商品を必ず無料のビニール袋に入れてくれたり、プラスチックのカトラリーをつけてくれるため、プラスチックの消費に対して日本よりも寛容であるのだろうと感じました。また、マレーシアでは食事の際、お冷やが出てこないのも、ドリンクを注文する人が非常に多く、大学の食堂には飲み物を売るお店が7店舗中2つもありました。日本では見かけない光景に、マレーシアと日本の文化の違いを感じました。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今回初めて海外に行き、自分の語学力の無さを痛いほど感じました。コミュニケーションを取りたいのに言葉が出てこないという日本では味わったことのない苦しさは初日から私を襲いました。そして、コミュニケーションがうまく取れないことがこんなにも苦しいものなんだな感じました。また、簡単な単語しか話せない私に、現地の学生や教職員の方はとても親切にしてくださるため、より申し訳なく、辛く感じました。海外に行かなければ、この感情は抱けなかったと思います。この感情はこれからの人生で決して忘れることはないです。帰国した今は、語学に対する興味が非常に高まり、もっと英語を話せるようになりたいという気持ちでいっぱいです。そして、英語を話せるようになって世界中の人たちとコミュニケーションを取り、笑い合いたいという夢ができました。いつかまた成長した姿でマレーシアを訪れたいと思います。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

私は海外に行ったことがなく、この事業に応募すること自体が大きな挑戦でした。人生で一度は絶対に留学に行きたいと思っていましたが、海外への不安や費用の面からもなかなか勇気が出ず、踏み出すことが出来ませんでした。しかし、このプログラムはとてもありがたいことに費用を負担してくれるため、自分の中の不安要素の一つがなくなりました。非常に感謝しています。

そして、日本に帰国した今言えるのは「めちゃめちゃ楽しかった！！本当に良い経験をしたな！！」ということです。迷っているなら応募してください。全部自分でやらないといけないプレッシャーは正直とても大きいです。ですが、この経験は必ず自分のためになります。私はなりました。これを見ている方で「今の自分を変えたい…」という人には、ぜひその一歩を踏み出してほしいです。応募することに勇気がいると思うし、不安を抱くと思います。でも、人間、何とかできます。何とかするしかなくなります。

少しでも心が動いたのならば、ぜひ挑戦してみてください！

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	115,000円
海外旅行保険	6,176円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	21,000円
宿泊費	26,989円
光熱費	0円
食費	10,000円
その他	69,500円
合計	248,665円